

Deckart デッキアルト 施工要領

1. 下地ネダ

- 材質 材質木製ネダ、アルミ製ネダ、鋼製ネダ(亜鉛めっき鋼板など)
※木製ネダにつきましては、固定ビスの引抜強度が発揮される材料をご使用下さい。
→デッキ材は木粉・プラスチック成分が含まれている為、吸水・温度による伸び縮みが発生します。
23℃50%RH平衡状態→40℃90%RH平衡状態の伸び率=0.14%(L1000mmあたり1.4mmの伸び)
伸びによりビスの抜けが発生しないネダを設定下さい。
- ネダサイズ 木製ネダ…巾は、90mm以上で設定下さい。
長手ジョイント部分の根太材は、110mm以上を推奨します。
鋼製ネダ…巾は、70mm以上で設定下さい。
長手ジョイント部分の根太材は、90mm以上を推奨します。
厚みは設置される束や大引の取付ピッチに応じて選定して下さい。

■ネダ間隔

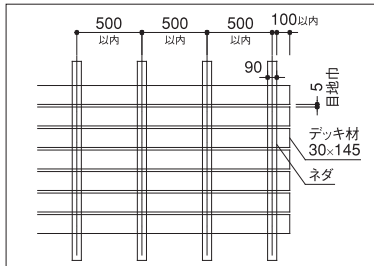
芯芯500mm以下として下さい。

■デッキ材の片もち距離

ネダ端から100mm
(70巾ネダでは、芯から135mm)

■デッキ材の目地巾

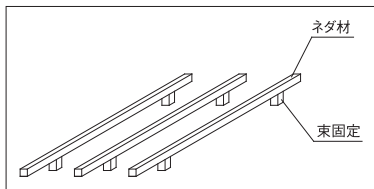
目地巾は、最小5mmで設定下さい。



2. 束、大引

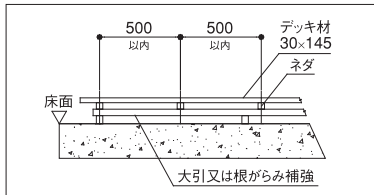
◎高さ、下地状況により選定して下さい。

◎大引を使用しない場合は束を必ず床(地面)に固定して下さい。
※固定しない場合、表面材の反りが発生し、ネダごと持ち上げる不良が起きます。



◎床固定ができない場合、大引あるいはネガラミ材を設置して床組の変形を押さえる構造として下さい。

例…鋼製パイプのネガラミ材では巾40・厚み25t1.6のパイプを900mmピッチで使用



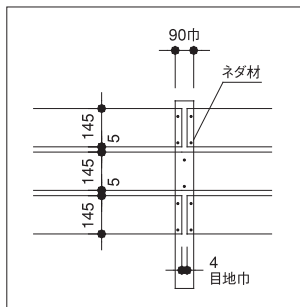
※束を固定しない場合、強風でデッキが床組ごと飛散する可能性があります。
固定しない場合は、別途飛散防止対策をお勧めします。

3. デッキ材のカット

- ◎デッキ材カット用のノコギリ刃は、プラスチック(塩ビパイプ)カット用の刃を推奨します。(デッキ材には、プラスチック成分が含まれている為)
- ◎デッキカットで小口にバリが付いた場合は、紙やすり(#600程度)で削り落として下さい。

4. デッキ材の間隔

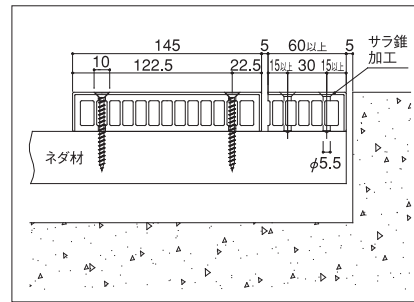
- ◎巾方向には最小5mmの目地を設定して下さい。(温度上昇+給水膨潤により1mm程度の巾のフレクがあります。)
※突きつけた場合固定ビスの破壊→面材の剥がれが生ずる恐れがあります。
- ◎長手方向ジョイントには基本的に4mmの目地を設置して下さい。
※冬場施工では6mm、夏場施工では3mmなど、施工時期、温度に応じて調整して下さい。
※デッキにはプラスチック成分が含まれている為、温度差で伸び縮みが発生します。冬場施工時には、十分に目地を設定して頂かなければ、夏場の温度上昇吸水率で伸びが発生し、デッキ材が突き付けになって破損が発生する場合がありますのでご注意ください。
→23℃50%RH平衡状態→40℃90%RH平衡状態の伸び率=0.14%(L1000mmあたり1.4mmの伸び)



5. デッキ材固定

- ◎脳天ビス(頭部直径10mm・ネジ径5mmサラタッピングネジ、ステンレス製)で施工します。長さは下地によって選定して下さい。(木製ネダではL60mm、鋼板ネダやアルミ型材ネダではL45mmなど)
- ◎デッキ材には必ずφ5.5の下穴を開けてください(サラ錐加工と同時に)

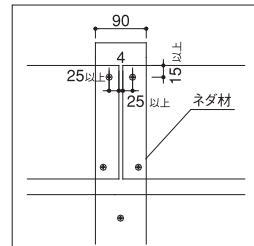
- ◎頭部はサラ錐(10.5mm)加工を前もって行い、サラ頭が0.5mmほど埋まる様に深さ調整して下さい。
※デッキ材が中空構造の為、サラ錐加工が深くなると、穴あき・割れはが発生する場合がございますのでご注意ください。
- ◎ビス打ちの際、締め過ぎますとデッキ材の割れにつながりますので、適度に電動ドライバーのトルクを調整して下さい。



6. デッキ材 長手ジョイント部の固定

■デッキ材をL2000未満で使用する場合

- ◎木製ネダ…巾は、90mm以上で設定下さい。
- ◎鋼製ネダ…巾は、70mm以上で設定下さい。
- ◎デッキ材断面端部から25mm以上離れる箇所固定して下さい。
- ◎デッキ材側面端部からは、22.5mmの位置で固定して下さい。(デッキ巾を調整した場合でも、側面から15mm以上離れる箇所固定して下さい。)



■デッキ材をL2000以上で使用する場合

- ◎木製ネダ…巾は、110mm以上で設定下さい。
- ◎鋼製ネダ…巾は、90mm以上で設定下さい。
- ◎デッキ材断面端部から35mm以上離れる箇所固定して下さい。
- ◎デッキ材側面端部からは、22.5mmの位置で固定して下さい。(デッキ巾を調整した場合でも、側面から15mm以上離れる箇所固定して下さい。)
- ※端部近くでビス固定を行うと、デッキ材の伸縮でエッジが破損(割れ)する場合がございますので、ご注意ください。
- ※ネダ材部分にも記載しておりますが、吸水・温度によるデッキ材の伸縮がございますので固定ビスの引抜強度が発揮されるネダ材の使用をお願い致します。

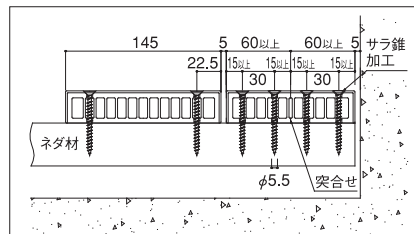
7. デッキ端部調整

巾方向の調整

◎巾方向のデッキ端部調整は、60mm巾以上に設定して下さい。

◎デッキ材巾方向の削ぎ落として、デッキ材の巾が60mm以下となりかつ、そこが踏み面となる場合には以下の方法で調整して下さい。

- ・隣合うデッキ材をもう一枚巾調整し、1枚の巾を大きくする(1枚の巾は、60mm以上になるよう設定して下さい。)



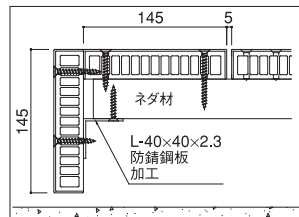
◎調整したデッキ材のビス固定は、端部より15mm以上で設定下さい。

8. デッキの小口処理

小口隠しにデッキ材を使用する場合も、デッキ固定時同様にサラ錐・下穴加工を行って下さい。
注)小口は、サンディング処理をしておけません。気になる方は、#60程度の紙やすりで粗して下さい。

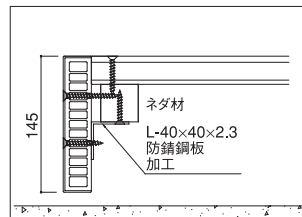
■デッキの側面側の小口隠し

- ◎側面にデッキ材を固定する場合、2箇所ビス固定を行ってください。1点は、デッキ材側面。もう1箇所はビス固定可能な下地材を設定して下さい。(下図では、40×40 Lアングルですが、ビス固定が可能なネダ材であればネダ材にビス固定でもOK)



■デッキの断面側の小口隠し

- ◎断面にデッキ材を固定する場合も、2箇所ビス固定を行ってください。1点は、ネダ材。もう1箇所はビス固定可能な下地材を設定して下さい。(下図は、40×40 Lアングル)



■デッキの小口隠しのコーナー部分

- ◎デッキ材を小口隠しで使用しコーナが発生した場合、両側のデッキ材を45°にカットして突合せ、面取りを行って下さい。(巾3mm程度)
※突合せ部分は、デッキ端部が鋭角となり危険です。必ず面取りを行って下さい。

